

週寫眞報

情報局編輯

六月十日・第二廿四號・十七

昭和十七年六月十日



一をもつて百千に當るのが日本人のやりかただ

頭數だけ並べて仕事をしようなんて、それは米英式だ

量よりも質、より磨かれた技術、生産の方法にも新工夫を

自分で出来る仕事は他人にまかせるな

遊んではあられないぞ

舞臺は廣くなつたのだ、もつとく、人が要るのだ



高松宮殿下御渡満

満洲國皇帝陛下と  
固き御握手を交させ給ふ

盟邦満洲國建國十周年に當り、満洲國皇帝陛下に對し御祝意を表せられるため、長き遊りより御差遣の高松宮殿下には、御禮嫌しく、五月二十八日夕刻、新京へ御到着、莊重な國歌『君が代』の奏せられる中を、南方戦線御視察の御賜灼け色も御凛々しく降りたたせ給ひ、御出迎への皇帝陛下と固き御握手を交させられ親しく御言葉を重ねさせられました。わが皇室と満洲國皇室との御親交のほど拜するに畏き極みでありました。

かくて御入滿第一夜は、四千三百万満洲國民の歡喜に溢れる中を安らかにお過ごし遊されましたが、翌二十九日には皇帝陛下と公式に御會見、親しく御祝詞を述べさせられた晴れの御使命を果させ給うたのであります。

御寫眞は新京驛頭、固き御握手を交させられる高松宮御差遣宮殿下と満洲國皇帝陛下





↑ 北部ビルマ戦線を一路北へ、輸糧とちつとくわが輸送部隊の戦車をついで少し前まで將軍へ輸血の品を満載したトラックが走つてみたビルマ・ルートに、いま日の丸がさしたわが快進部隊が追撃する



相違なしであることを知るよりも、いよいよ大東亞戦争一掃も抜き、新政府組織の決意を固めなければならぬ

このさし迫つた情勢の前に重慶の混戦はその極に達し、重慶政権の内部にも抗戦の前途を悲観した空気がいよいよ濃厚となるに至つた。だが、蔣の米英依存はすでに輿論界に入つてゐる。おそらく今後といへども重慶は最後の勝利なるものになほも密に抱いて悲壯な決意で抗戦を継続するものと思はれる。われは重慶が窮乏のどん底に足掻きながらも抗戦意蓋はなほ

# 重慶の腹背を衝く



ビルマから  
浙東から

五月一日、雲南マンダレーを占領したわがビルマ方面作戦部隊は以來總追撃戦に移り、各方面とも敗走する敵を急追してこれを國境以内にも追へ、徹底した追撃を喫へたが、追撃部隊の一部は復走する敵を追つてビルマ、雲南、國境線を超え、龍陵、騰越等の要衝を相次いで占領、一部はビルマ・ルートに急進して、暹羅海岸に達し、更に前進をつづけてゐると報せられてゐる。かくてかつての接納路は、いまわが封鎖路とかはり、南方各地の作戦を終了したわが部隊は何時でも昆明、重慶への進撃を行ひ得る態勢にあるが、



↑ 越支國境を敗走する敵の退路を絶つて、任射を浴びせかけるわが〇〇砲

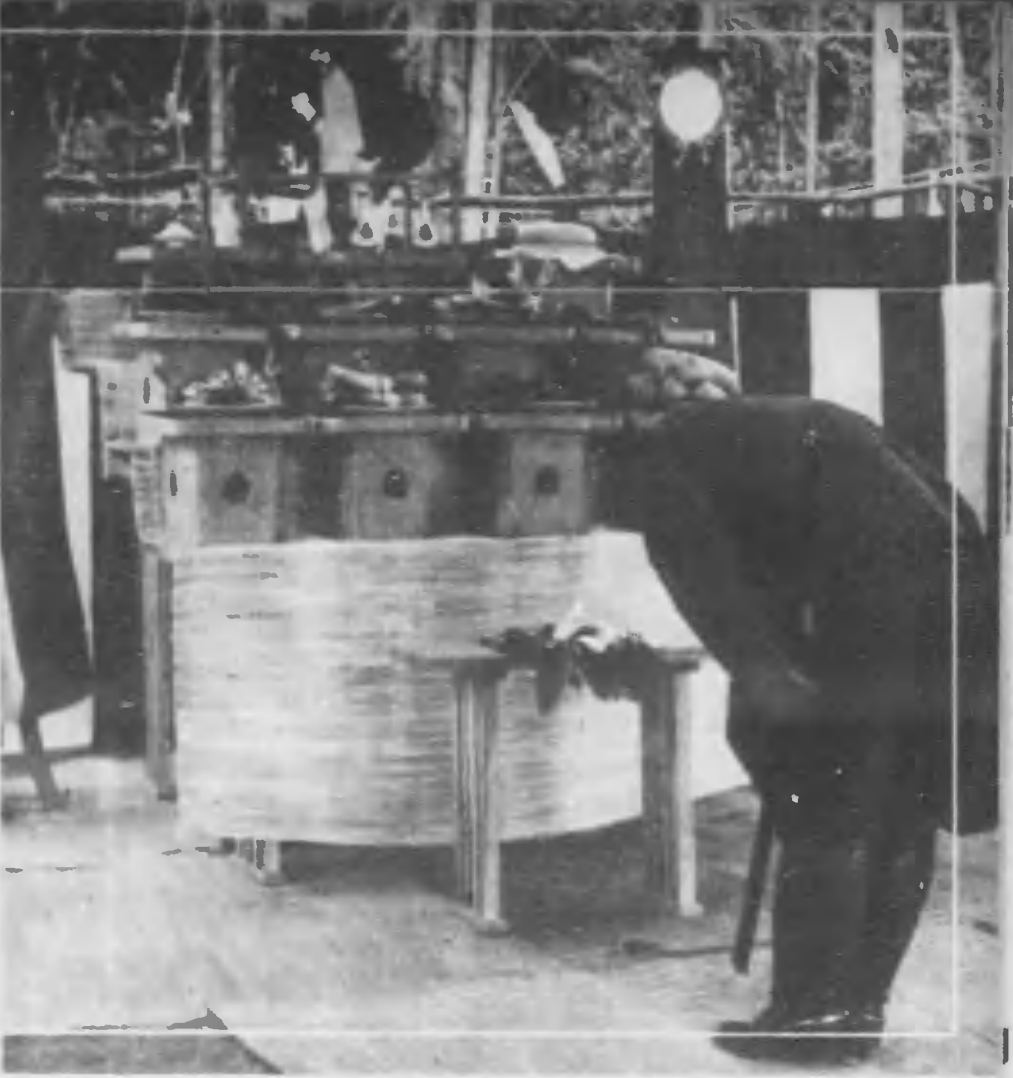
↓ 越支國境内に殘敵を撃滅すべく、猛烈敵陣地に迫るわが歩兵部隊











昭南社と昭南社



大東亞戦争日誌

五月二十六日 開戦以来五月二十日までに判明せる帝國海軍の綜合戦果並びに我が方の損害概表

艦名	種類	戦果	損害
第一艦隊	戦艦	...	...
第二艦隊	戦艦	...	...
第三艦隊	戦艦	...	...
第四艦隊	戦艦	...	...
第五艦隊	戦艦	...	...
第六艦隊	戦艦	...	...
第七艦隊	戦艦	...	...
第八艦隊	戦艦	...	...
第九艦隊	戦艦	...	...
第十艦隊	戦艦	...	...
第十一艦隊	戦艦	...	...
第十二艦隊	戦艦	...	...
第十三艦隊	戦艦	...	...
第十四艦隊	戦艦	...	...
第十五艦隊	戦艦	...	...
第十六艦隊	戦艦	...	...
第十七艦隊	戦艦	...	...
第十八艦隊	戦艦	...	...
第十九艦隊	戦艦	...	...
第二十艦隊	戦艦	...	...
第二十一艦隊	戦艦	...	...
第二十二艦隊	戦艦	...	...
第二十三艦隊	戦艦	...	...
第二十四艦隊	戦艦	...	...
第二十五艦隊	戦艦	...	...
第二十六艦隊	戦艦	...	...
第二十七艦隊	戦艦	...	...
第二十八艦隊	戦艦	...	...
第二十九艦隊	戦艦	...	...
第三十艦隊	戦艦	...	...
第三十一艦隊	戦艦	...	...
第三十二艦隊	戦艦	...	...
第三十三艦隊	戦艦	...	...
第三十四艦隊	戦艦	...	...
第三十五艦隊	戦艦	...	...
第三十六艦隊	戦艦	...	...
第三十七艦隊	戦艦	...	...
第三十八艦隊	戦艦	...	...
第三十九艦隊	戦艦	...	...
第四十艦隊	戦艦	...	...
第四十一艦隊	戦艦	...	...
第四十二艦隊	戦艦	...	...
第四十三艦隊	戦艦	...	...
第四十四艦隊	戦艦	...	...
第四十五艦隊	戦艦	...	...
第四十六艦隊	戦艦	...	...
第四十七艦隊	戦艦	...	...
第四十八艦隊	戦艦	...	...
第四十九艦隊	戦艦	...	...
第五十艦隊	戦艦	...	...
第五十一艦隊	戦艦	...	...
第五十二艦隊	戦艦	...	...
第五十三艦隊	戦艦	...	...
第五十四艦隊	戦艦	...	...
第五十五艦隊	戦艦	...	...
第五十六艦隊	戦艦	...	...
第五十七艦隊	戦艦	...	...
第五十八艦隊	戦艦	...	...
第五十九艦隊	戦艦	...	...
第六十艦隊	戦艦	...	...
第六十一艦隊	戦艦	...	...
第六十二艦隊	戦艦	...	...
第六十三艦隊	戦艦	...	...
第六十四艦隊	戦艦	...	...
第六十五艦隊	戦艦	...	...
第六十六艦隊	戦艦	...	...
第六十七艦隊	戦艦	...	...
第六十八艦隊	戦艦	...	...
第六十九艦隊	戦艦	...	...
第七十艦隊	戦艦	...	...
第七十一艦隊	戦艦	...	...
第七十二艦隊	戦艦	...	...
第七十三艦隊	戦艦	...	...
第七十四艦隊	戦艦	...	...
第七十五艦隊	戦艦	...	...
第七十六艦隊	戦艦	...	...
第七十七艦隊	戦艦	...	...
第七十八艦隊	戦艦	...	...
第七十九艦隊	戦艦	...	...
第八十艦隊	戦艦	...	...
第八十一艦隊	戦艦	...	...
第八十二艦隊	戦艦	...	...
第八十三艦隊	戦艦	...	...
第八十四艦隊	戦艦	...	...
第八十五艦隊	戦艦	...	...
第八十六艦隊	戦艦	...	...
第八十七艦隊	戦艦	...	...
第八十八艦隊	戦艦	...	...
第八十九艦隊	戦艦	...	...
第九十艦隊	戦艦	...	...
第九十一艦隊	戦艦	...	...
第九十二艦隊	戦艦	...	...
第九十三艦隊	戦艦	...	...
第九十四艦隊	戦艦	...	...
第九十五艦隊	戦艦	...	...
第九十六艦隊	戦艦	...	...
第九十七艦隊	戦艦	...	...
第九十八艦隊	戦艦	...	...
第九十九艦隊	戦艦	...	...
第一百艦隊	戦艦	...	...

先

私は英人俘虜の手記を見た。その一節に、神話を焦だたせる姿なき部隊といふ魅力的な一句が目についた。姿なき部隊といへば雲の上から或ひは八千メートル以上の超高空から爆弾を落す姿なき爆撃隊のことかと思つて讀み続けるとさうではない。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦後の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

ゲマスに來る頃からは、日本軍も明る中に夕食を始めた。それは夜襲の用意と、もう一つは夜間敵の攻撃をする火を狙つて敵機が銃射するのを避けるためだつた。つまりそのころ兩軍とも仲良く日夜前に夕食を食べてゐたわけだ。一方は迷走度、一方は夜襲度だから勝負は早い。

「日本兵はマレー作戦に最も適した靴をはいてゐた。ビッター足につき、ヤモリのやうに木へ登るし、岩を這上るし、そして音かしない。その靴は布製であつて、裏にゴムがついてゐる。」

と、詳しく説明がついてゐる。地下足袋の事に違ひない。足袋といへば日本獨特のものだ。その足袋が英軍を恐れしめたといふから話せよう。

「どうして日本軍はこのやうに早く迫ることが出来たのだらう。あの音なき靴をはいて足音をしたのだらうか。いやそれにしては餘りに早すぎる。不思議でならぬ。考へながらそのとき私はかねて侮蔑してゐた自轉車が傍らに抛り出されてゐる事實に気がついたのである。姿なき部隊の正體は實にこれだつたのだ。」



姿なき部隊

佐少

「初め日本兵はみずばらしい服装をしてゐると思つた。しかしその服色はカメレオンのやうに、一度ジャングルに入ると實でも見つけることが出来ない」となかく、

「どうして日本軍はこのやうに早く迫ることが出来たのだらう。あの音なき靴をはいて足音をしたのだらうか。いやそれにしては餘りに早すぎる。不思議でならぬ。考へながらそのとき私はかねて侮蔑してゐた自轉車が傍らに抛り出されてゐる事實に気がついたのである。姿なき部隊の正體は實にこれだつたのだ。」

「私には自動車で何時も第一線に跟随した。あるとき、イポー附近の橋が破壊され、銀輪部隊も私達も約三時間路上に待たされたことがあつた。オヤロと私の車の側に自轉車を持つた一人の兵士が立つてゐた。彼はもう尻の皮が三度割け變つたと云ふ、持つてゐる自轉車があまりに古ぼけてゐるので、自轉車はいくらもあるから取替へたらといふことを話してみると、かうなれば、この自轉車の「車心」も分り、可愛くて手放せせんタイと質朴な氣持を察してゐた。

自轉車には湯沸しや蚊帳まで世帯道具がくさりつけてあるばかり

「今お書きですか」と訊ねる。自轉車は遅いですね、といふ意味らしい。私も自轉車は早いものだと思つた。橋梁を悉く破壊されたマレーでは、結局自轉車が「ばん早かつたわけだ。その自轉車には先日の湯沸しも尿も見えなかつた。尿はどうしたのかと云ふ。大切にするからと約束したから安心しましたともつけ加へた。

總攻撃の前日で明日の命も分らぬからこそと思へば、武人らしいこの兵士の情は羨ましくして聞き得ないものがあつた。

シンガポールで會はうと、その後姿を見送つたものであるが、今になつて思へば、あれが英人を震へ上らせた姿なき部隊であつたのだと、なつかしさを覚えてならない。





# 陸軍部隊 五目飯

—てに地基

〇〇方南—

「あ今日は五目飯だぞ」嬉しい食事に舌鼓をたたきながら噛みしめる一口々に勇士達の顔には幼い日の様々を思ひ出す去来する

「部長長官これは少し大きいですね」

「五目飯の味は少し大きいですね」

「オイヤ、まさか、片よてあると知られる

戦時中、兵隊の生活は厳しく、食生活も限られていた。この「五目飯」は、戦時中の特産品として知られていた。記事は、兵隊たちがこの料理を食べて、幼い日の思い出を思い出す様子を描いている。写真も、兵隊たちが食事をする様子や、調理している様子を示している。

子供の頃によく御飯つぼをこぼしてはおくろにおこられたつぼが、どうもまたこの時直らないらしいセロワハハハハハ——だが五目飯は、幾分お代りをしては、まあこの手はと、優しく母にたしなめられたこと

「五目飯の味は勇士達の心に遠く懐かしい幼い日の思い出を呼び起こしてくれる。お餅の日に、祭りの日にも、さうい、と誕生日にも満足にもなかった。幾分か幼い味をよろこぶとして呉れた母の心遣いに、つい何杯も何杯もお代りをしては、まあこの手はと、優しく母にたしなめられたこと

故郷のお母さん。お母さん。今日も幼い弟妹達に五目飯をこしらへてやつてみるかも知れない。そして茶目だった僕の幼い日の話に弟妹達を笑ひつけさせるかも知れない。こんなふうに書いたからと僕が、こんな思ひ出で感傷に耽つてゐるな、と思はないで下さい。それがこのか、無事か、戦火の下をくぐり、いま南海のこの基地に落ちついて、戦友達の手に作られた五目飯をほろり泣かぬ。まああの生死を超えた新しい戦時中の思い出を思い出し、私も、いつか私をばけま、嬉しい



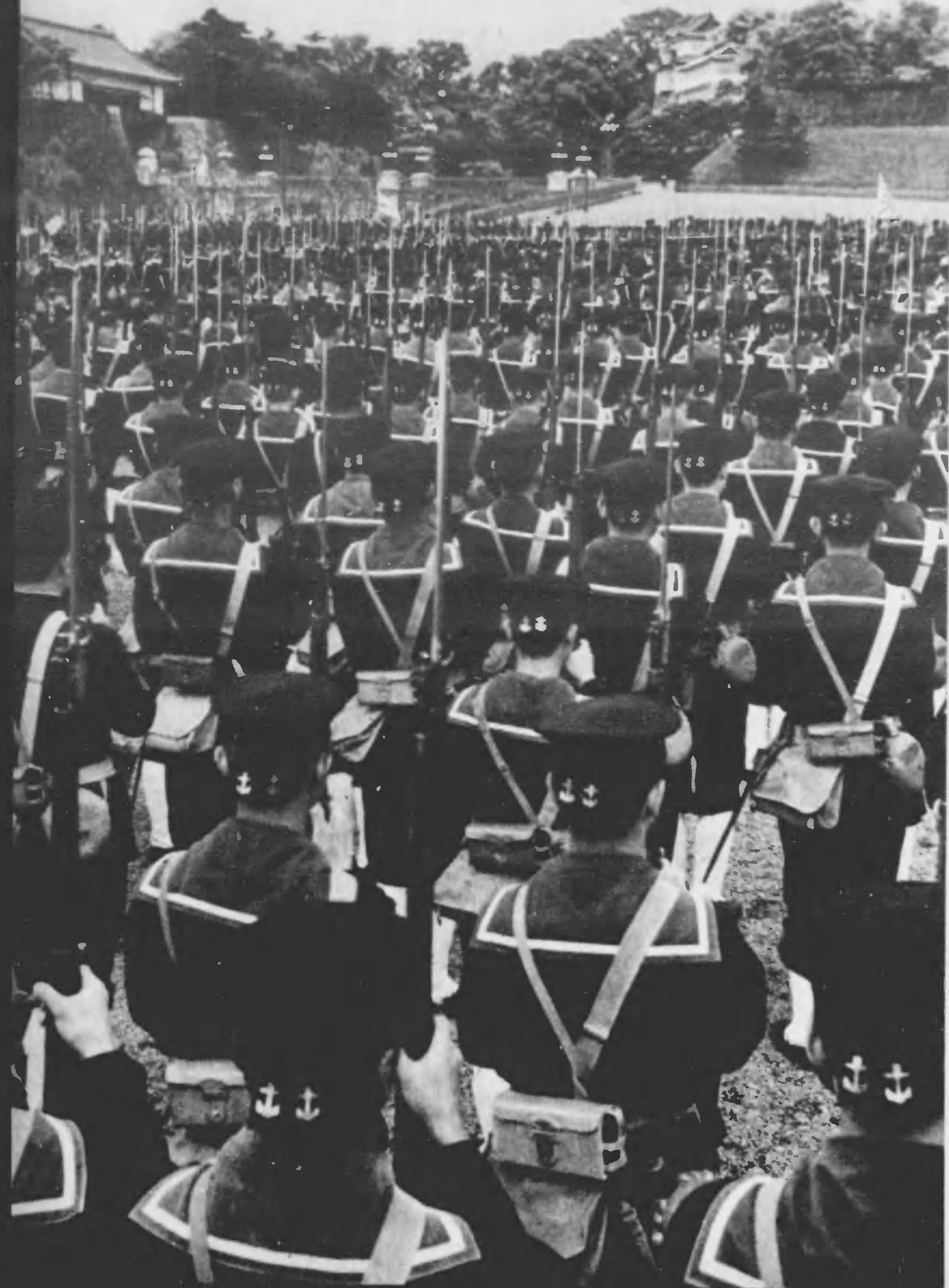












# 大御稜威を謝し奉る

海軍陸戦隊 五月二十七日  
海軍記念日

大東亞戦争下に第三十七回の海軍記念日を迎へ三十七ヶ年の四季を繰りかへたに立ち立てられたわが無敵海軍の勳は煌然と輝く。眞珠灣奇襲攻撃に、ジャヴァ沖に、將また珊瑚海海戦に東亞英蘭聯合國海軍勢力は滅びされ、いまや大東亞海はわが内海に、太平洋、インド洋の制海權全

くわが手にあるとき、この日、横濱賀茂守府より派遣の武勳に輝く海軍陸戦隊は歩武堂々と歡呼に沸く帝都を行進した。官威を拜し、嗚と吹奏される「君が代」に眼がし、熱く捧げ舞する海軍陸戦隊男七

## 蠢動の機をうかゞふ残存米海軍主力

米海軍による撃沈、大中戦を除く

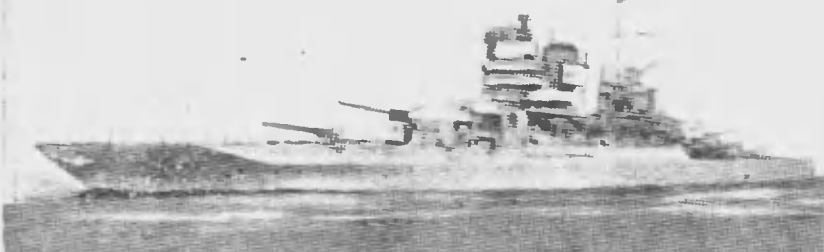
### 戦艦



ワシントン 排水量 35,000トン 速力 28ノット  
(ワシントン型) 備砲 16インチ9門 竣工 1941年



アイダーホ 排水量 33,400トン 速力 21.5ノット  
(ニューメキシコ型) 備砲 14インチ12門 改装 1934年



ニューメキシコ 排水量 33,400トン 速力 21.5ノット  
(ニューメキシコ型) 備砲 14インチ12門 改装 1933年



ミシシッピイ 排水量 33,400トン 速力 21.5ノット  
(ニューメキシコ型) 備砲 14インチ12門 改装 1933年



テキサス 排水量 27,000トン 速力 21ノット  
(テキサス型) 備砲 14インチ10門 改装 1927年



ニューヨーク 排水量 27,000トン 速力 21ノット  
(テキサス型) 備砲 14インチ10門 改装 1927年



アーカンサス 排水量 26,100トン 速力 20.5ノット  
(アーカンサス型) 備砲 12インチ12門 改装 1926年

### 航空母艦



ホーネット 排水量 19,900トン 速力 34ノット  
搭載機数 80 竣工 1942年



エンタープライズ 排水量 19,900トン 速力 34ノット  
搭載機数 81-100 竣工 1938年



レンチャー 排水量 14,500トン 速力 29.5ノット  
搭載機数 72 竣工 1934年





と娘南安 て似真手と顔笑を切親  
士勇傷戦がわ



兵隊さんまで一役買つて、身振り手振りで佛印を語り、日本を語る  
 ↑お手傳ひするモンティジュさん  
 ◁ 爽やかな日も近い兵隊さんと朗らかに語る



◁ 水は細かく割りませう アンナン嬢はうなづき、せつせと働く



◁ 水枕の取替へなどはアンナン嬢の愛持ちです



◁ 言葉が通じうるうれしき。勞はる者、勞はれる者に溜かい気分が流れる

傷病兵の看護に深くましいほど真剣な奉仕を捧げてゐる現地病院の看護婦さんへ、私達もお手傳ひさせると、このほど陸軍〇〇病院へ約十名の安南嬢が、兵隊さんの身の廻りの世話、水枕の取替へなど、日本人看護婦さんの指導の下に甲斐々々しく働いてゐます。いまのところ仕事の能率は五人かゝつても日本人の看護婦さん一人に及びませんが、やがては仕事もおぼえませう。手慣れよろしく、「かうしてくれ」「あーしなさい」と意思を傳へる兵隊さんや看護婦さんの無言をくみとる動もよく、院内のあちこちににぎやかな風景が散見されます。

在留日 久米 深尾博特温泉



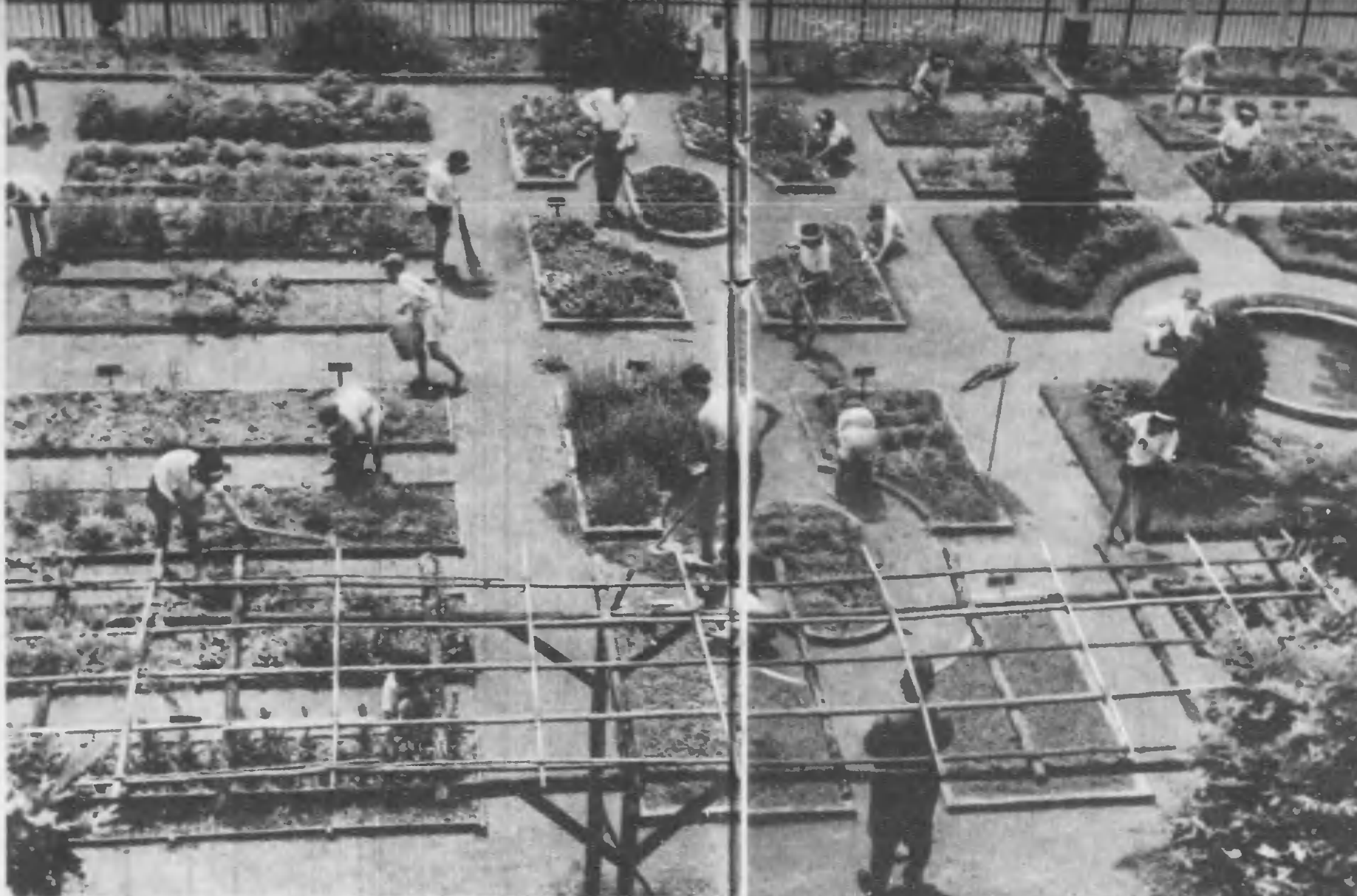
# 真心咲き匂ふ慰霊花壇



◎ 教ひの心で挿いた一粒の種が幾日か経つてこんなに愛くるしい花が咲きました

皇軍将兵が愛國の一念、盡忠の一心、内苦  
 缺乏に堪へ、砲彈雨をものともせず第一線に  
 活躍し、幾多の輝かしい勲功を積んで戦場の華  
 と散つた英雄はどの輝かしい勲功を積んで戦場の華  
 ちがこの大戦争の真最中にも拘はらず、上にも  
 かくにも安らかに日々を暮してゆけるのは、全  
 くこれら勇士の方々のお蔭ですが、これと思ふ  
 につけ、英雄に對し朝な夕なにかの感謝と  
 慰敬の誠をつくすことは、私たちの當然のつと  
 めでなければなりません

大阪市住吉國民學校では、さういふ氣持か  
 四年前の支那事變一周年記念日として、校庭  
 にさ、やかなから花壇を設け、その名もゆかし  
 い『慰霊花壇』と名づけて、少國民たちが四年  
 さまんの草花を栽培してゐます。そして住吉  
 校下の英雄の命日や七月七日の記念日には、  
 齊に忠魂の家を訪れて、丹精こめて作つた草花  
 慰霊の道場に捧げる可憐な心の草花、これはやがて  
 伸び伸びと、うまし大東亞に咲き轟くことせう



◎ 今日片岡さんの命日です。片岡の花束を慰霊に挿けて心から一献がた  
 らございましたと申しました。そして、『ついでにも美しく咲け  
 よ、お花たち、兵隊さんのお手柄を忘れずに』といつて歸りました



慰霊花壇 大阪市住吉國民學校

## 大阪市住吉國民學校

×を慰前に挿け哀願を祈つておられますが、郷土の  
 殉國勇士が働き者たちに種す無言の訓化は測り  
 知れぬ深いものがあります

贈贈の一畫日あたり、所で、この花壇に出来上  
 る時、先生が『おひんがある人は時々来てト  
 さい。』とおっしゃいましたので、私は二本も三本  
 きました。今、はげしいとやよもや色々美しい花  
 がさきみだれてゐます。このお花は戦死なされた兵  
 隊さんにあげるのです。毎日高等科の人が草取りを  
 したり、水まきをしたりして手  
 入れをしてゐます

私は愛からこの美しいお花壇を  
 見ながら、いつも兵隊さんの事  
 を想へてゐます

これは二年生女生徒半田さ  
 んの感想文の二節ですが、清  
 純な真心に通ふ今は亡きま  
 らをの姿が、まぎ／＼と日に  
 見えるやうではありませんか  
 このやうな可憐な慰敬を受  
 けられる遺族の喜びは、た  
 とへやうもありません。住吉  
 校に寄せられた遺族の方の歡  
 ある文の中に、『戦死者の母  
 より』として

戦ひの陣にて散りし吾子へ遺き  
 し日々お供へ下さる花壇の御片  
 綱を感謝し拙きもの乍ら言葉  
 に代へました

英靈に花挿げはそと幼子の真心こめし涙を簪し  
 遺きし日に色とり／＼の花束にまこと手向ける姿や  
 さしや

といふ、わが子を挿けて心あぐまで安らかな母  
 の三十一文字を讀むことができませんが、このや  
 うなお母さんといひ、切々勇士を想ふ子供たち  
 といひ、こゝにこそ戦ひ續けていよ／＼強まし  
 しい日本の眞の姿があるのでせう

撮影 中藤 敦

◎ 『花壇で買へばものと珍しい立派な花があります。しかし英霊はたと  
 へ形や美しさが劣つてゐても、私達が真心こめて挿けるこの花壇の花  
 の方をきつと喜んでお受け下さるでせう』(二年生徒の感想文から)



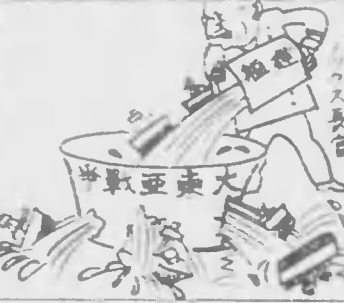
片岡正三



大東亞戰爭漫面誌  
川石 進



伊洛水戰戰圖詳詳家世



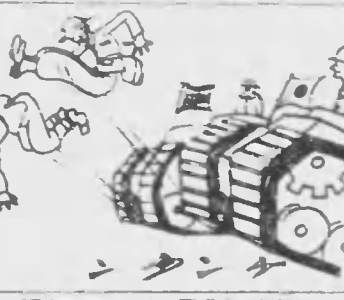
道途の力船造



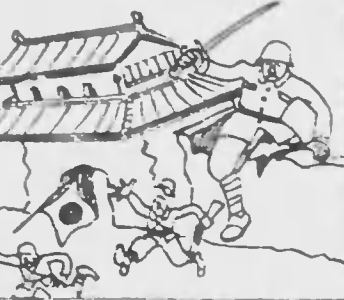
民衆の軍用車



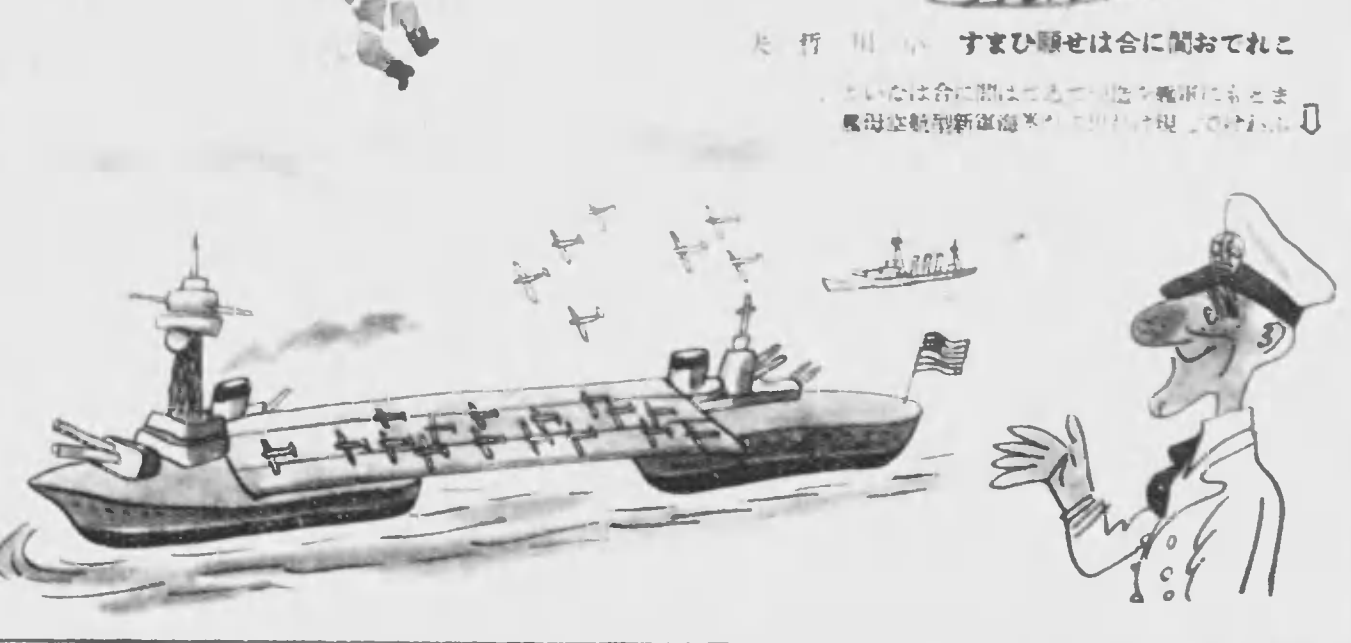
陸軍の飛行機



日共共作機でタンク



命軍城を完全陥落



照準器

敗戦 照準器 大野 誠

大日本

七つの艦を八つに折って 西 啓 子 郎

大日本

下下も代用品では 佐藤 利 大



一等兵の留守宅では醤油瓶の箱詰めのお手付け



光榮に奮立つ少年團奉仕隊

佐賀縣藤津郡鹿島町國民學校の少年團奉仕隊は、昭和十三年四月、純真な奮心を發露させて結成されたから、日も缺かすことなく同町出征軍人の遺家族への奉仕をつづけ、團員九百三十三名が濃くましい奉公のまことを揮けてゐますが、このたび九州方面に御差遣あらせられた人江侍は五月十六日同様に到京、この健氣な少年團奉仕隊の活動状況を觀察されおほめの言葉をかけられました

佐賀縣 星野 雅美



折角ですが今日はこれではガラス戸のお掃除でも



刈りとつた青草を山と積んで引きあげる奉仕隊



家業を守る勇士の留守宅へは毎日薪づくりのお手付け

復讐堂

- 本館からあなたは何を學んだらうか。
- 1 帝國海軍に沈没された米英の航空母艦は開戦以來、海軍記念日までに幾許何隻になりましやうか？ (五頁)
  - 2 地〇國は昭和二十五年までに二十五万町歩の荒地を農田に化さうといふ計畫の下に實施を急いでゐます (四頁)
  - 3 マレー作戦でゴムの輸と鐵の輸を二つづつ持つてイギリス兵の心腹を寒からしめた豪なキ部隊とは？ (九頁)
  - 4 アメリカになほ無敵で残つてゐる敵艦は何隻ありますか？ (一五頁)
  - 5 金華といふ名前を最近聞いたことがあるでせう 支那の映画女優、浙東作戦で占領した町、最近進水した國民政府の軍艦、昭南島とジコルバールとの間にかかる鐵橋、昭南島にかゝるビルマ・ルートは、昭南島と支那では虹のことをかういふか？ (四頁)
  - 7 昭南島には昭南神社といふのがあつたはずだが、いやあつたわけではないよ、最近地獄祭が行はれたばかりだもの？ (八頁)
  - 8 浙東作戦の行はれてゐるのは支那のどの邊でせう？ 宜昌から重慶へ向ふ揚子江岸、杭州の南方方面？ (七頁)
  - 9 ランダンからビルマ・ルートとどんでん・行くところ、建ちますか？ (四頁)
  - 10 プアチアの激戦地隊に最近漢洲兵俘虜が一生懸命土壁びをしてゐます。何をしてゐるのせう？ 井戸掘り？ トチカ掘り？ 開墾作業？ 忠靈塔工事の労働奉仕？ 地下鐵工事？ (八頁)
- 一冊十點としてあなたは買取つて見たか？



★ 叢 載

今朝も絶好の陽曜日だ。雲はピンと晴雲を張つて勢を伸ばした。雲は濃く杯積みこまぬ。エンジンの調子はすべてよし。出發の時給はいよいよ迫つた。地上勤務員は再度愛機に駆け寄つて細かく調整を促しつつプロペラを一杯一杯回して細かく調整した。エンジンの各氣筒にガスがたつぷりと浸みこむ。

撮影 鈴木海軍報道班員

寫眞週報

昭和十七年六月十日印刷

編輯部 情報局  
東京市豊島区  
印刷部 内閣印刷局  
東京市豊島区

定 價  
一部十錢 (送料一錢)  
外埠郵送に依る地域は送料其部十九錢  
▲兼約配達御希望の方は、部十錢 (送料一錢) の割合を以て前金を添へ御申込み下さい。  
▲特大號の場合は其の郵便掛増込をより考慮を申受けて下さる。

所 達 申  
全国各地官報販賣所  
新聞販賣店  
書店・洋書店  
新聞材料店



# 大東亞戰爭國債

# 一枚勝 一枚為 一枚為 一枚為

郵便高券出 自六月二十二日 至七月三日 大信省 省

東京新聞社 昭和十七年六月二十二日發行 郵票一圓 大東亞戰爭國債

内閣印刷局印刷發行

(郵便制度1-A4種規定額はさ)大の券本)